

趣味は、
観劇

法学部長 津村先生



趣味は、
研究

経済学部長
遠藤先生

特集

**部長のこと、
教えてください!!**

教



趣味は、
写真撮影

文学部長
有川先生



趣味は、
実験

理学部長
持田先生

先生の学生時代の勉強の思い出は？

基本的には朝型で、一人で勉強することが多かったんです。ただ、たまに同級生に勉強を教えることがあって、人に教えることは自分の勉強になるんだな、ということが高校の時に理解しましたね。大学に入るとグループで勉強することが増えました。夜の8時か9時くらいまで図書館が開いていたので、授業が終わってから一人で勉強することもありました。高校生の時の勉強の際の心構えとしては、高校の勉強イコール大学受験なので、先週も法科大学院の学生さんにお話したんですけれども、受験する時期が分かっている、それまでに必要な勉強量も決まっているので、ゴールに向かってどうやって勉強していくかという段取りが結局は大事ですね。限られた時間をどう使っていか、ということです。

大学教授になると決めたきっかけは？

当時は大学を卒業してすぐに助手に採用される制度があり、ゼミの指導教授から声をかけられたのがきっかけです。なぜ大学に残ったかという、組織的に行動するのはあまり向いていなかったからで、残念ながら学問的な情熱があってこの道に進んだわけではないんです(笑)。ただ、無理して大学に残ろう、これしかないとは思っていませんでした。民間で勤めるのもいいと思っていました。でも大学って個人研究室がありますよね、個人研究室であれば大部屋で毎日他の人と顔を突き合わせる必要がないので、それが自分にとって魅力的だったというのがあります。

典型的な一日のスケジュールは？

週の初めに1週間分の授業の準備を行い、それが終わったら自分の仕事に取り掛かっています。とはいえ、午前中は授業、午後は学部長としての会議が入るので、自分の仕事はそれらの合間にやることになります。研究に関しては夜、全ての授業が終わった後に行っています。だいたい夜9時くらいまでです。

研究するうえで、また日々のニュースを得るうえでの情報収集方法は？

専門的なものはデータベースがありますし、国際的なものはそのジャンルの雑誌を個人で購読しているのそこから入手しています。どんな授業を担当するかにもよりますが、テーマによっては、新聞記事を多く見ることもあります。新聞記事は学生さんにとってはわかりやすいようです。新聞記事の見出しをネットで見ることもしますし、本紙の社会面の記事を毎日チェックすることもしています。また、犯罪学の授業を担当しているのですが、なぜ人は罪を犯すのかというテーマを考える上での最前線が実は脳科学なんです。そこで、池谷裕二さんと茂木健一郎さんの本が使えるんです。最近購入したのは「ふたご教育」という本で、なぜ人は罪を犯すのか、ということを考える時に、育ちが遺伝か、というのが重要なので、東京大学の双子研究本を読んでいます。本の情報の多くは、新聞の書評や雑誌から仕入れてます。

休日の過ごし方は？

最近ご無沙汰なんですけど、昔はけっこう芝居とかを見たりしていました。新大久保のグローブ座ができたころ、海外からいろんな劇団がやってきていて5千円くらいで芝居が見れたんですよ。加藤健一っていう役者さんが好きで、その劇団はまずハズレがない。カッパルでもオススメです。下北沢の本多劇場です。一度「大人数」を見に行きましたが、私はちょっと合いませんでした(笑)。あとはほんとにご無沙汰ですが、ミュージカルも見てますよ。劇団四季などは大学時代の友人に連れられて、去年「ジーザスクライストスーパースター」を見に行きました。それから、観世能楽堂で能を見たりもします。

学生へオススメの本 「影響力の武器(大学図・書庫 301.4/422)」

役に立つという意味では「影響力の武器」(チャルディーニ)でしょうか。人を動かすにはどうすればいいか、人はどういこうところを攻められると騙されやすいか、のせられやすいかという本です。授業でもけっこう使えるんです。初版をゼミの学生の課題図書にしていた。マンガもオススメです。「チェーザレ：破壊の創造者」や他にも「日出処の天子」「あさきゆめみし」など、マンガで興味が持てるところからいろいろの出発点となっていければいいと思います。何でも史実がきちんとおさえられているものであれば参考にしていいのではないかな。マンガだからって否定する必要はないでしょう。例えばテレビドラマ化もされたんですけど、法科大学院制度開始後の司法試験を受けて弁護士になった主人公が、奮闘する姿を描いたマンガ「そこをなんとか」。リアルな現実感がきちんと描かれています。あとは少女マンガでいうと吉田秋生の「海街ダイアリー」というのがお気に入りです。鎌倉を舞台にした人間模様を描いています。

法学部長
津村先生

「私の色紙は法学部図書館内に
展示しています」
なんと、卒業生が自身の髪で
書いた一枚のこと!

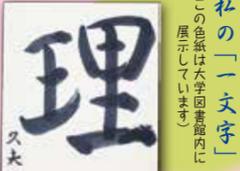


学部長インタビュー!!

学部長のこゝと、教えてください!

先生の学生時代の勉強の思い出は？

大学のゼミの話をししましょう。3年生でした。医療経済学を専門としている先生のゼミに入っていたのですが、その先生が秋から海外研修に行くことになり週2回の集中ゼミを前期に行い、9月からは他のゼミに分散することになりました。私はなんとなく面白そうだったので、大学院を出たばかりの数理解論学を専門としていた新任の先生のゼミを選びました。ゼミの仲間は5人に減っていました。ゼミは週2回あり、宿題も出されました。授業の初めに証明問題の解答を黒板に書くのですが、答えが正しくても解き方が美しくないとダメと言われて、それなりに厳しかったのですが、雰囲気は最高でした。ゼミが終わって、そのまま飲みに行くこともしばしばありました。あんな雰囲気のゼミを作りたいと思うのですが、なかなか難しいです。先生の人柄だったのでしょう。数年前にお亡くなりになったのが残念です。



私の「一文字」
(この色紙は法学部図書館内に
展示しています)



経済学部長
遠藤先生

意味も形も何となく好きな字とのこと。
奥様とお嬢様の名前にも
一文字ずつ入っているそうです!

先生の学生時代の勉強の思い出は？

私の勉強の分野は美術史でして、美術史では足を使って学ぶことが多いですね。だから見学旅行が一番の学びですね。見学旅行の中で学生、教員がともに行動して実際のモノを見ながら、あだこうだ議論する。机に向かって本を読むよりも、仲間と展覧会に行つて実物の前で議論しようというのが楽しかったし、勉強としても一番ためになったと思います。

大学教授になると決めたきっかけは？

ちょっと変わった経歴というか美術史では普通なんだけど、大学院を出て、それからドイツに2年ほど留学して、帰国してから上野の国立西洋美術館の学芸員として13年間勤めました。教授から美術館のポストが空いているけどどうだ?という話があった時に、私は研究も好きなんですけど、とにかく「現場で直接モノに触れられる!」のでそりゃもう美術館だな。しばらくして学習院に来て教えないかっていう話があって、美術館の仕事は実は肉体労働でして、展示の前にはカタログ作りで徹夜になることもあるんですね。そろそろ体も疲れてきたし、教えるのは嫌いではないので、やってみようかって(笑)。だから、こうならう!と思ったのではなく、私の場合はなんとなくめぐり合わせでこうなった。当初は経済学部に入って、銀行かなんかに勤めようかくらいに考えていたんだけど、何となく違ってきたので、自分が一番好きなことを仕事に出来ないかと考えた時に美術関係が面白いかなというような感じ。だから、大学一年生や二年生の時点で何をやっていいか分からない学生がいるのは当然だと思うんです。

典型的な一日のスケジュールは？

学部長をしていると日によってガラッと違うので、典型的な一日というのはいんです(笑)。忙しいのは月、火で色々な会議がある。水の午前中は会議の後処理に使う。木、金も今回のインタビューもそうですが、色々入ってくるでしょ(笑)。で、金曜日には授業を集中させて、学部長のことはなるべく忘れて、教師っていうところへ戻りたいと思っている。土曜日も学部長室が開室しているので、隔週ですが午前中は学部長室にいます。

研究するうえで、また日々のニュースを得るうえでの情報収集方法は？

今は正直、ネットですね。昔だと、必要な情報は関係する本の参考文献目録から探しましたよね。今はGoogleで検索すると何か引っかかってくるし、文献を探したいというときはまずamazonです。場合によってはこれから刊行される本の情報が得られることもある。ネットは非常に雑多な情報があるわけけれども、何が正確かを注意して使えば非常に便利。美術史の場合であれば、作品の図版なんかも出てくるんですね。昔は記憶を頼りに、確かあの本のあのページにあったはずだ...って探していたんだけど、ネットですごく便利になってますね。ゴッホの研究なんかでも書簡全集がネット上で無料で公開されている。それこそ世界中の展覧会の情報が取得できるし、図版もネットで取り寄せができる。だから、使い方に気をつけた上で、十分に利用すべきものかなと思いますね。

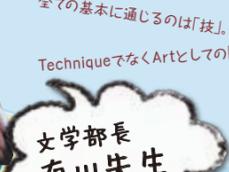
休日の過ごし方は？

体を動かさなきゃいけないんだけど、走るのも億劫だから、多摩川沿いをサイクリングしています。あとは写真を撮るのが趣味で、去年1年間ヨーロッパで研究していた時は2万5千枚位撮りました。4月から学部長になってなかなか整理する時間が取れないんですが、頭を切り替えたい時はその整理作業をしています。その間は学部長としての課題ですとかは頭から飛びますから(笑)。

学生へオススメの本

「新古今和歌集(大学図・1F開架 081.2/33B/34)」

新古今和歌集ですね。なにせ拾い読みができるのがよい。それに、読むたびに何か色々発見があります。



文学部長
有川先生

全ての基本に通じるのは「技」。
TechniqueでなくArtとしての「技」。



私の「一文字」
(この色紙は法学部図書館内に
展示しています)

先生の学生時代の勉強の思い出は？

私は出雲大社の近くで育ちました。私の家は農家でしたので、野球部で野球をした後は家の手伝いで農作業をしていました。まとまった勉強というのは高校時代からですかね。あととにかく中学生の頃から本をたくさん読んでました。親父はあまり本を読まなかったんですけど、集めるのが大好きで、それを乱読してました。時々友達などに家の本を貸すと、1冊無いと親父が大騒ぎして。普段は読まないくせにね(笑)。

それから、大学時代に自分は化学しかできないと思ってましたんで、実験でその日に帰ったことはなくて、大体深夜3時まで実験をして、朝9時にまた学校へ来るという生活をずっと続けていました。そのこともあって、学習院大学に採用された当初、同じような感じで学生に指導していたところ、学生たちに実験室から締め出されたことがありました。やり方が厳しすぎるということで。父兄からも毎日遅くまで実験ばかりさせるなと随分文句も言われました。その時は、「君たちはここでは優秀かもしれないけれども、社会に出た時に東大、東工大、早稲田、慶應の連中と競わないといけない。そういう連中と競ってそこで泣くよりも、いま泣こう。」と言って納得してもらいました。最終的に学生はちゃんと付いてきてくれましたね。今は大企業の部長になったり所長になったりそれぞれ社会に出て頑張っているようです。

大学教授になると決めたきっかけは？

育ったのは田舎ですからね、成績の一番いい人が医学部に行くんですよ。私は親から医学部の方に行けと言われてもすけれども、血を見ると私は倒れるので(笑)。で、高校の時に用務員さんがいて、先生とその用務員さんが(笑)の化学の実験を教えるんですよ。っていうのも実は、用務員さんじゃなくて化学の先生だったんですけどね(笑)。用務員さんが化学教えるんだと思って、あ、これなら自分でも出来るかなと思って、それで化学が好きになって、化学をやったっていうことですね。それから実験が好きで、たまたま目的化合物をより早く作ることが出来たというのもあります。私は幸いなことに手先が非常に器用なんです。また、体で勝負するタイプですから。あとは、いい先生に恵まれました。深夜3時位に一人で実験をしていた時、ものすごい大きな地震が起きた。しばらくすると教授がたくさんやって来たんですが、本来ならば、一人で実験してはいけないという鉄則があるんだけど、誰もそんなことは一言も言わず、「こんな遅くまでやってるのか」と言われただけで済んだんです。それが何かすごく嬉しかったですね。それと、仲間にも恵まれました。アメリカでは言葉に詰まるとコップが飛んでくるような研究室に所属していたのですが、その先生とは顔をあわせたくないと思うくらい厳しい先生でしたので、それを心配した同僚が私とその先生を握手させて、「モチゾ!これで気が済んだか!」、と、そういうふうにしてくれた(笑)。そんなことの積み重ねですね。それから今の学生はドライイェなようできちんと夢を持っているので、その夢を実現させられるように、こちらが頑張れるその力があるまで、教員という職にしがみつこうかなと思っています。

典型的な一日のスケジュールは？

学生には10時までに来て実験を始めると言っているのですが、私はその前に学校に来ます。火曜日の授業をやる以外は全部、自分の研究と学生実験を見るということをしてます。学部長のハンコは、時々ご飯を食べにきた時に押す(笑)。それと、月曜日は会議があるんですが、他の先生と接するのは考え方が違うのですごく面白いですし、楽しいですね。ただ、もう学部長はいいと思ってます(笑)。

研究するうえで、また日々のニュースを得るうえでの情報収集方法は？

情報源はやっぱり、化学の雑誌ですね。今は、インターネットでそのような雑誌をチェックしますね。それから異なる分野の友人から情報を仕入れて研究に反映するというのもしています。

休日の過ごし方は？

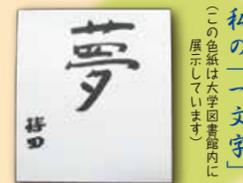
日曜日、学校に来る前と、ちょっとまだ明るいうちに帰った時に、色々庭の手入れをするという程度ですかね。女房から趣味を持ちなさいと言われるんですが、これと言った趣味は無いですね。

学生へオススメの本

「大気を変える錬金術:ハーバー、ボッシュと化学の世紀」(大学図・1F開架 574A/H12t)

この間も学生に勧めたんですが、「大気を変える錬金術:ハーバー、ボッシュと化学の世紀」(ハイガー)です。この本では、ハーバーはアインシュタインを超えていると書かれているんです。というのもアンモニアの合成法が発見されなければ、今の地球上の人口は2分の1くらいしかないだろうと。なんせ肥料ですから、アンモニアは。彼はナチスに協力したことで、色々迫害も受けた。でも彼らの研究生生活を見ると、共感するところは多いですね。す〜〜ごい。あ、こんなに実験をやっているんだと。正気かと疑うほどに夢中でやっていますね(笑)。

理学部長
持田先生



私の「一文字」
(この色紙は法学部図書館内に
展示しています)



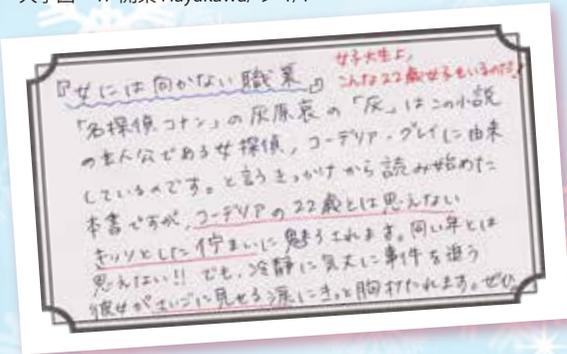
学習院に来ると心に決意した夢。
その夢が実現するまで
ひげを剃らねばとのこと。

「Book Hunting!」読書感想コメント発表!

今年5月に実施した「Book Hunting!」(学生選書体験ツアー)で購入された本全てに読書感想を書き込めるコメント用紙を挟み込んだところ、複数のコメントが寄せられました。その一部をここでご紹介します(中には、その本を選んだ学生に対するお礼のコメントもありました!)

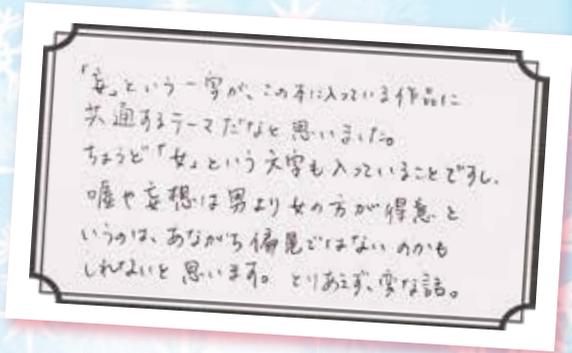
女には向かない職業

P.D. ジェイムズ著 小泉喜美子訳 早川書房 1987
大学図・1F 開架 Hayakawa/シ 1/1



少女地獄

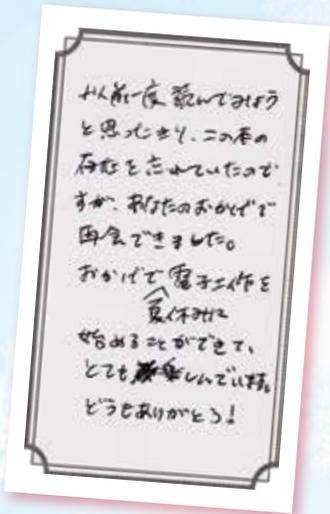
夢野久作著 角川書店 1976
大学図・1F 開架 Kadokawa/ゆ 2/3



Make: electronics:

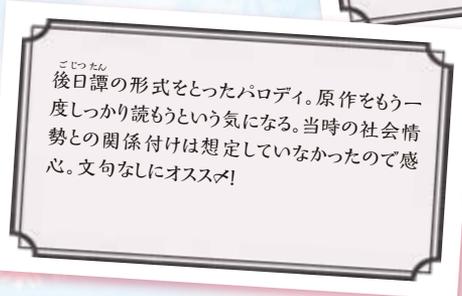
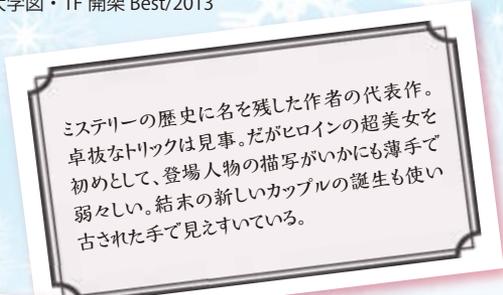
作ってわかる電気と電子回路の基礎

Charles Platt 著 鴨澤真夫訳 オーム社 2010
大学図・1F 開架 549A/P71m



皇帝のかぎ煙草入れ

ジョン・ディクソン・カー著 駒月雅子訳 東京創元社 2012
大学図・1F 開架 Best/2013



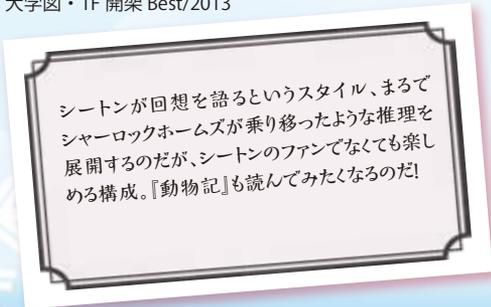
鷹作『坊っちゃん』

殺人事件

柳広司著 角川グループパブリッシング 2010
大学図・1F 開架 Kadokawa/や 39/5

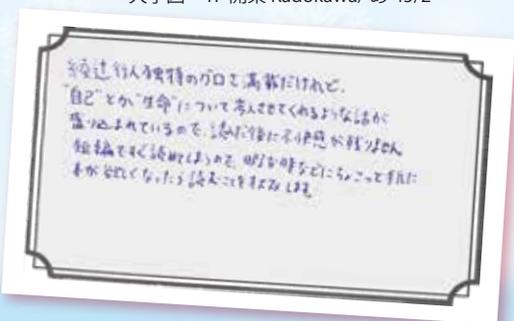
シートン(探偵)動物記: 連作短編ミステリー

柳広司著 光文社 2009
大学図・1F 開架 Best/2013



眼球綺譚

綾辻行人著 角川書店 2009
大学図・1F 開架 Kadokawa/あ 45/2



「私の本棚」は 学習院のデータベース !!

はじめまして。経済学部 眞嶋です。普段は「一般経済史」という科目を担当しています。私は残念ながら読書家ではないので、自慢できるような本棚はないのですが、本数は少なくとも、お金はなくても、持っていたと思うのは、岩波文庫などの古典ですね。数年前まで「ランチタイム・ブッククラブ 古典を読む会」というのを昼休みに定期的にかけて、スミス著『国富論』などを学生さんたちと一緒に読んできました。古典は何度読んでも味があって、長年人々に愛されてきた理由があるものです。英語などの原著で読むとさらに味わい深いですね。

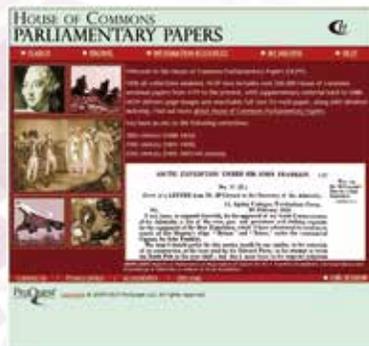
今回、「私の本棚」としてご紹介したいのは、日頃とてもお世話になっている学習院のデータベース集です。私のような歴史を勉強するヒトにとって、史料収集が一番大事な第一歩。海外のコトを研究する場合は、ふつう史料調査のためにちよくちよく遠くまで出張しなければならぬのですが、学習院では素晴らしいデータベースのコレクションのおかげでずいぶん助かっているのです。歴史を学びたい学生さんたちに、まずお薦めしたいのは議会議事録とさまざまな新聞のデータベースですね。これらをうまく使えば、日々のニュースから議会での話題まで、どんなテーマでも網羅的にカバーできます。なかでも、歴史に特に関心がない方でも楽しめるのは、The Illustrated London Newsという新聞のデータベースです。とにかく絵が綺麗！データベースをブラウジングするだけで結構わくわくしますよ。

最近のマイブームは19世紀や20世紀のボルネオ島のジャングルについて書かれたもので、そういう英語でもレアものの本は夜寝る前のお楽しみに読んでいます。でも一番のあこがれは、学生さんたちとボランティア体験をする中で、まだ記録されていない自然や生活習慣に関する伝承を集めて「村の本棚」をつくることかな。まだまだ世の中は未知のコトにあふれているのだと思います。



経済学部経済学科教授
眞嶋史叙先生
(まじま しなのぶ)

学生さんとともにボランティア体験中



議会議事録のデータベース
「House of Commons Parliamentary Papers」



新聞のデータベース(とにかく絵が綺麗!)



最近のマイブームの本たち

らい
来ぶらり No.93 2013年12月16日

学習院大学図書館 発行責任者：平野 浩 編集委員：瀬戸山★フォードロヴィチ★雄介・内藤☆ソフィーヤ☆沙織☆
1階貸出・返却カウンター：☎ 03-5992-1009 内線 2397 2階レファレンスカウンター：☎ 03-5992-9249(直通) 内線2395・2396
☎ 03-3986-0221(代表) 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

「来ぶらり」のバックナンバーは
(<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/glim/about/publication.html>) で公開しています。

※学習院大学図書館ホームページリニューアル(平成25年10月1日)に伴い、URLが変更になりました。

